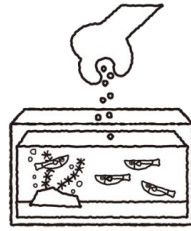


生活科



(1) 生活科の大切さ

なぜ、生活科を学習するのか。

小学校低学年の特徴は、発達上、具体的な活動を通して思考する段階にあります。そのため、身近な自然を観察し、季節の移り変わりを感じたり、身の周りにあるものを使って遊びを工夫したり、動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらは生命をもっていること、成長しているということを知ったりと、実際に見たり、聞いたり、触ったり、様々な体験や経験をすることを重視しているのです。

学習の中では、具体的な活動や体験を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けたり、自分の生活について考え、表現したり、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとする態度を養ったりします。

また、幼児教育から小学校教育への移行を円滑にするための教科として大きな役割を担っています。保育園や幼稚園から小学校に上がると、国語や算数などの「学習」が始まり、それまでの遊びを通じた総合的な学びとはがらりと変わります。そこで、生活科はそのギャップを少しでも和らげ、学ぶ楽しさや、そこで学習したことを次の学習や生活に生かそうとする意欲や態度を育むための教科でもあるのです。

生活科では、具体的な体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力の育成を目指すことを目標としています。

(2) 生活科の学習方法

授業では・・・

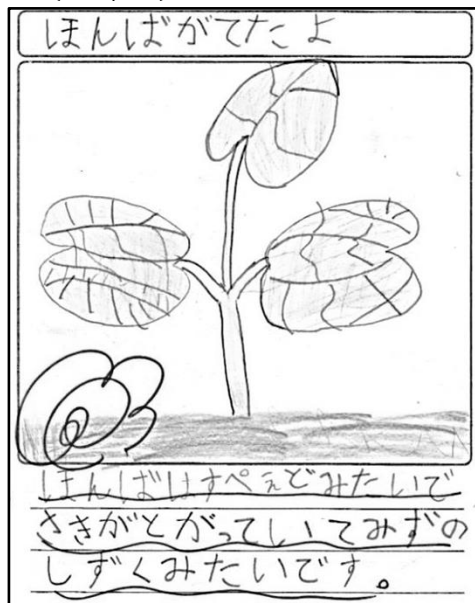
学校探検やまち探検を通して自分が生活している場所や住んでいる地域について知り、そこで生活している人々と関わりをもったり、自然の中で遊ぶ体験を通して季節を感じたり、植物を自分の手で育て、成長していく喜びを知ったり、生き物とふれ合う活動を通して命の大切さを感じたりと、直接体験的な活動を重視しています。1・2年生合同での異学年交流も積極的に取り入れています。そして、観察カードを書いたり、感じたことや気付いたことを交流したり、育てた植物を使って作品を作ったりと、体験しただけで終わりにならないよう、振り返りの時間も大切にしています。

家庭学習では・・・

- ① 規則正しく生活する。(早寝、早起き、朝ごはん)
- ② 基本的な生活習慣や技能を身に付ける。
- ③ 家族と一緒にやってみたいこと(遊びや運動)を行う。
- ④ 家族の一員としての仕事を行う。
- ⑤ 自分の成長について、家族に聞いて知る。
- ⑥ 動物を飼育したり、植物を育てたりする。

<観察カードの紹介>

(1年生)



(2年生)



<体験活動の様子>

(1年生)



1学期にはアサガオの種をまき、芽が出て成長していく様子を観察します。



季節に応じた遊びを考え、自然物を使ったり、体を動かしたりしながら季節を感じることでできるような活動を四季を通じて行います。



かるたやおはじきなどの伝承遊びを競ったり、ルールを工夫したりしながら楽しめます。

(2年生)



まち探検では、公園や公共施設を探検し、町の素敵なおとこを再発見し、町で働く人々の様子を知ります。



5月頃に矢ヶ崎農園でさつまいもの苗植えをします。12月頃に収穫します。